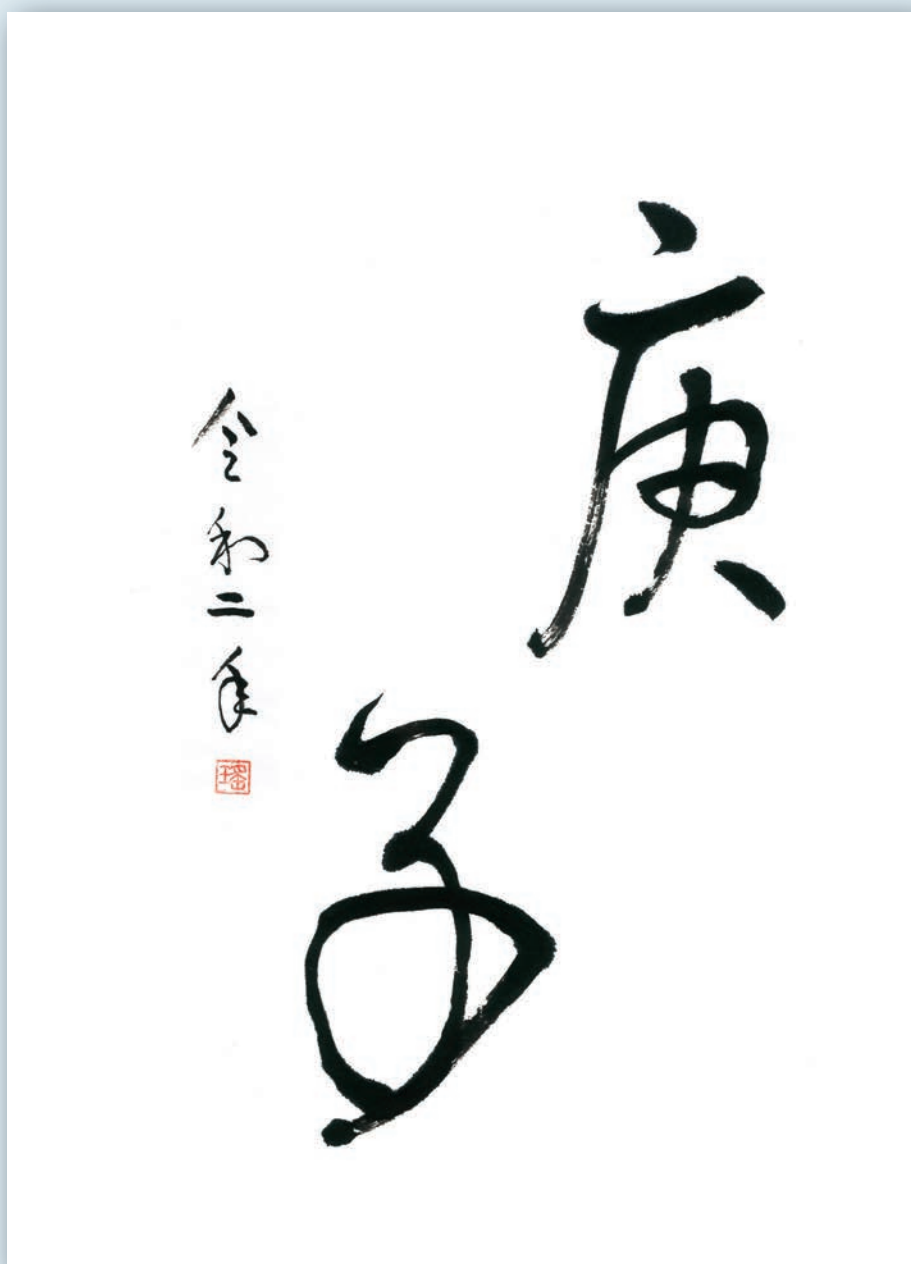


めでいかすとり
Médicastre



年頭のごあいさつ



令和2年 年頭のあいさつ

一般社団法人 鶴岡地区医師会
会長 土田 兼史

明けましておめでとうございます。近年まれにみる穏やかな年明けとなりました。会員の先生方、職員の皆さまには無事新年をお迎えのことと存じます。本年もよろしくお願いいたします。個人的な事情で、今年も皆様に年賀状をお送りすることができませんでした。ご寛恕ください。

今年度の医師会事業は、事業所ごとに好不調の差はあるものの、おおむね順調に推移しています。

しかしながら、令和2年度以降の鶴岡地区医師会について考えますと、10年後20年後の会の持続可能性については、これまで以上に真剣に、危機感を持って考えなければならない時期が来たと思っています。特に令和2年度から待ったなしの対応を迫られている「働き方改革関連法」と「介護職員等特定処遇改善加算」の影響は、令和2年度だけの問題ではなく、永続的に会の財務状況に少なからぬ影を落とすものと認識しています。平成28年の春、私が新任のあいさつで申し上げた、会員の皆さまにも職員の皆さまにも満足していただけない選択が必要となる、恐れを伴う予感。

私の任期はあと5か月足らずであり、医師会の重要な方向性について具体的な決定を行うのは、私の次の代の皆さんになるでしょうが、私自身も残された短い任期、問題から目を逸らすことなく考え続け、悩み続けようと思っています。

いささか暗い内容になってしまいましたが、皆さまのさらなる応援と叱咤激励を切にお願いするとともに、令和2年が皆さまにとって幸多き年になることを祈念して年頭のあいさついたします。

令和2年1月吉日



年頭のごあいさつ



病院機能評価受審と地域包括ケア病棟の導入、そしてこれからの 鶴岡市立湯田川温泉リハビリテーション病院

鶴岡市立湯田川温泉リハビリテーション病院
院長 武田 憲夫

鶴岡地区医師会会員の皆様、医師会職員の皆様、令和2年、明けましておめでとうございます。本年も宜しく願い申し上げます。

旧年中は、当院運営に関して、色々のご指導、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

新年に当たり、令和元年度のご報告と令和2年度の当院の主な方針をお話しさせていただきます。

令和元年度に行われた当院にとって重要な出来事の一つは、「病院機能評価」の受審でした。これは、財団法人「日本病院機能評価機構」が、病院の機能を様々な観点から客観的に審査、評価し、一定のレベルに達している病院を認定するもので、5年ごとに改めて受審しています。当院は5年前の平成26年11月に受審、承認されました。早いものでそれから5年が経ち、職員一同、また新たな気持ちで、受審のための情報収集、システムの整備、新たなマニュアルの作製、医療の進歩に応じた旧マニュアルの更新などを約1年かけて行い、準備を進めて参りました。この受審は、常に進歩発展している医療、医療システム、病院の運用システムなどに遅れないよう、最新の情報の収集、新しい時代に相応しい病院システムの構築、職員の意識の向上などを目的としたものです。当院の職

員一同が、常に医療、医療システム向上に向け、先を見据えた高いモチベーションを持っていることの現れであり、このことは、より質の高い、より安全で安心出来る医療の提供に結びつき、患者さん、ご家族、地域の皆様に「選ばれる病院」になるための、大きな礎になっていると思っております。令和元年11月25日、26日に日本病院機能評価機構から3人の審査官が来院され、予め当院が作製、提出した様々な資料に基づき、書類チェック、さらに、様々な項目や実際の事例に関する職員との直接の面接調査などが行われました。審査結果の発表は、2月か3月頃になると思います。

また、老朽化した当院の大規模改修が、足かけ4年にわたり行われてきましたが、令和元年度が最後になります。各病棟の食堂・サンルーム、リハビリテーション訓練室などの拡張、屋根の改修などが行われ、狭隘化し、患者さんにご不便をお掛けしていた部分はかなり改善されました。また、温度管理が不十分であった全館の冷暖房施設も更新されました。更に、老朽化したMRIも、鶴岡市と鶴岡地区医師会のご協力でも更新され、日立製 常伝導0.3T AIRIS Vento type ORIGIN5が導入されました。脳虚血の早期診断に有力な拡散強調画像、脳血管

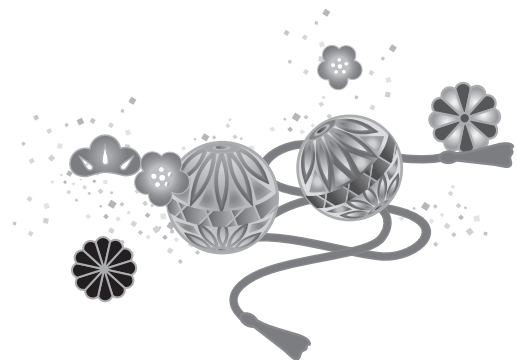
病変の診断に重要なMRAなどの画像精度が格段に上がり、診断力が向上しました。この様に、院内の様々な点が改善されましたが、今後も老朽化したインフラの改修は継続して行く必要があると思います。

令和2年度に予定しています当院の大きな改革は、第2病棟に「地域包括ケア病床」を導入することです。当院の第2病棟は、療養病棟入院基本料2で算定してきておりますが、当院のような医療療養病棟は、国の医療政策上廃止の方向が打ち出されています。「地域包括ケア病床（病棟）」は、地域に密着した「地域包括ケアシステム」のサポートという、国や県の地域医療構想に則った医療を推進出来ます。今後の庄内南部地区の医療を考えた時、当院が取るべき方向と考えました。当面は、9床から開始、最もハードルの低い「入院料4」を選択しますが、必須条件の「訪問看護ステーション」の設置は、鶴岡地区医師会訪問看護ステーションハローナースのご協力を頂き、サテライトを院内に設置する予定です。その他、入院日数60日以内で退院出来る患者の確保、軽症救急患者の受け入れなど、これまで当院にはなかったシステムの導入に向け体制作りが必要となり、徐々にステップアップして行く予定です。

また、当院の認知症に対する医療対応のレベルアップが行われています。地域の高齢化に伴い、当院入院患者の中に認知症症状を持った患者の割合が増えています。日常生活自立度II（日常生活に支障を来すような症状・行動が見られるが、注意していれば自立できる。）以上の患者割合は、当院では約70%を占めていま

す。一方、全国回復期病棟協会の報告書（2019年7月刊）ではその割合は44%であり、当院は認知症症状を示す入院患者が非常に多いことが分かります。昨年7月に当院最初の「認知症看護認定看護師」が誕生し、認知症サポート医、リンクナース、介護士、リハスタッフなど多職種からなる「認知症サポートチーム」を9月に立ち上げました。また、新たに病院に「認知症ケア委員会」を設置し、多様な認知症症状を示す患者に対し、病院としての積極的な取り組みを開始しています。

令和2年度は、当院が、これまでのように、「回復期を中心としたリハビリテーションを提供する機能」だけではなく、地域に、より密着した医療を提供し、「地域包括ケアシステム」に協力する機能をもつ病院としても進化して行こうと考えております。しかし、この方向性は、医師会会員の皆様、各病院の皆様のご協力なくしては出来ないことです。これまで以上のご協力とご指導を宜しくお願い申し上げます。



第13回 庄内プロジェクト 緩和ケア市民公開講座開催

鶴岡市立庄内病院 地域医療連携室 渡部 忠

日時：令和元年11月23日(土)

場所：いろり火の里 なの花ホール

第13回 庄内プロジェクト緩和ケア市民公開講座が令和元年11月23日(土)、三川町いろり火の里なの花ホールにて開催されました。当日は205名の来場者があり盛況に終了しました。

今回はオープニングとして、今年度、日本管楽合奏コンテスト全国大会で最優秀賞、審査員特別賞を受賞した、鶴岡東高等学校吹奏楽部より「ウェルカム」「嵐メドレー」などを演奏していただきました。演奏場所が客席の直ぐ側ということもあり、迫力のある演奏を堪能できました。

続いて「庄内プロジェクトについて」では緩和ケアサポートセンター鶴岡・三川のセンター長鈴木聡先生が、庄内プロジェクトの活動によって、緩和ケアへの理解や、がん患者さんの在宅死亡率が向上したなどの成果を紹介しました。

この日のメインとして「元ちゃんハウスでの出会い～この地でがんとむきあう」という演題で、金沢において外科医であった亡きご主人の意思を継ぎ、「元ちゃんハウス」という病院でもない、家でもない第3の場を運営している西村詠子先生

よりご講演していただきました。日本人の2人に1人が“がん”になる時代ですが、病院内では患者・医療者の関係がついて回り、患者はいろいろな不安や相談したいことを抱えながら我慢している。医療者も実は「知っているフリ・わかっているフリ」をする。など、自由な対話ができないということから、院外に支援の場を作られたということでした。また、金沢市、金沢医療センター、金沢大学附属病院と協定を結び地域のために精力的に活動している先生のお話にも、来場者も感心していました。

庄内プロジェクト市民公開講座グループでは、緩和ケアの普及・啓発を目的として、市民公開講座のほかに、患者さんやご家族と医療者が語り合えるための場として、「ほっと広場」やストーマ患者さんのための「ぶちたみ」などを実施しています。

今年度も緩和ケア市民公開講座が、関係者の皆様のご協力で盛会に終了することができ、厚く感謝申し上げます。



スタッフ写真



西村詠子先生



会場風景



新年の抱負（年男・年女）



三浦 二三夫（斎藤胃腸クリニック）



あれから止めたこと、スキーは靴が私同様にプラスチックが劣化し、履けなくなり終了、ゴルフは筋力の低下で飛ばなくなりあきらめがち、釣りは海が危険でやめ、溪流釣りも年1, 2回となった。そんなこんなで7回目の子年を迎えた。次の子年は何をしているのでしょうか？

渡邊 清（池田内科医院）



六回目の年男。奇跡です。還暦過ぎから続々と生活習慣病が芽を吹きだす。壮中年期までの生活の因果応報と納得。古希から筋トレ、有酸素運動を開始、現状維持を図っています。これまでの皆様方のご厚情に深謝申し上げます。

鈴木 準（こどもクリニックすずき）



年男の通知を頂いて驚いております。医師会に入会させて頂いてから早いもので33年目になります。最近父の没年に近づいてきたことを意識することが多くなりました。医師会の先生方や職員の方々のご助力のお陰でここまでやって来ることができました。厚く感謝申し上げます。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

上野 寿樹（湯田川温泉リハビリテーション病院）



今年で医師会職員になって12年目を迎えます。前回の子年の時は病み上がり直後であったのだと思うと感慨深いものがあります。これからも医師会職員の自覚をもってがんばりたいと思います。

横山 靖（よこやま皮膚科医院）



ついに還暦。ブラームスが晩年の名作といえるピアノ小曲集、作品117～119を書いた頃。人生の機微を語りかけるような滋味深い音楽。作品117の1や118の2は絶品。私も早くこんな境地に達したいものです。

五十嵐 裕一（鶴岡市立荘内病院）



年齢はあまり意識しないように、でも時には自覚して過ごしていきたいと思っています。

Introduction

研修医

鶴岡市立荘内病院研修医1年目 京田 俊介



こんにちは。研修医1年目の京田俊介です。千葉県生まれ東京育ちで鶴岡とは殆ど縁がないのですが、様々な経緯で荘内病院で研修しています。2年間、お世話になります。

・鶴岡の印象

人が少ない、高い建物が無い、空気がキレイ、方言わからない、、ってところでしょうか。あと、だだちゃ豆はおいしかったですね。感動ものでした。東京の実家に3kgくらい持って帰りました。家族からも好評でした。それくらい良かったです。

以下、好きなことについて述べます。

・映画

洋画をよく見ます。『Stand by Me』『The Green Mile』『Reservoir Dogs』『Good Will Hunting』『Interstellar』などが好きですね。鶴岡ではフラッと映画を観られないのが残念です。

・マレーシア

北緯2°くらいに位置する国。大学4年生の時、研修で1か月半滞在しました。民族も宗教も言語も何もかもが多様で、毎日がスリリングでした。田舎にある寮らしく、途中で断水などのハプニングありましたが、あの時が大学6年間で一番楽しかったです。果物の女王Mangosteenは、最高に美味しいと感じました。

・旅

全く知らない土地をフラフラするのが好きです。沢木耕太郎の『深夜特急』に憧れて、大学時代に東南アジアを貧乏旅行しました。『深夜特急』は全て読破しました。大沢たかお主演で

テレビドラマ化され、そちらも途中まで観ているのですが、ヨーロッパ編は未だ観ておりません。旅が終わってしまうのが怖いというか残念で、放置しています。

・バドミントン

大学時代バドミントンをしていました。最初はそれ程好きではなかったのですが、徐々に好きになりました。観戦するのも好きです。東京オリンピックのチケットは落選しました。かなり落ち込みました。日本は最近強くなっている気がします。今年のLee chong weiの引退はとても寂しかったですね。

・水曜どうでしょう

北海道のローカル番組。大泉洋、ミスター、藤本D、嬉野Cの4人組の旅番組。本当にくだらないけれど、かなり面白いです。

・白玉ぜんざい

基本的に甘くてモチモチしているものが好きなんですよね。くず餅とかタピオカとか。病院での昼休憩ではシュークリームばかり食べていますが、理想を言えば白玉ぜんざいが食べたいです。

・ディズニーリゾート

小さい頃からよく行っていました。地図を見なくても歩ける程度には行っています。妹も好きで、妹と2人で何度か遊んだこともあります。値上げされたのと山形に来たので最近行っていませんけれど。12/26から、クッキーが登場しましたね。ダッフィーとジェラトーニは持っていますが、クッキーを買うかは悩みます。

妹は、東京の三井記念病院でオペ室看護師をしています。京田という看護師がいたらおそろく私の妹なので、よくしてやってください。

表紙

「歳月人を待たず」

松浦 優

穏やかな時代になって欲しいとの願いが込められた元号、早くも令和二年を迎え、平穏でゆっくりしたくらしが続けられるようにと、干支を草書体で表現致しました。生きるということは常に学ぶことであると考えています。多くの困難ものり越える力を常に持ち、本年を無事に過ぎて参りたいと思います。

編集後記

新年あけましておめでとうございます。皆さま、今年もどうぞよろしくお願ひ致します。「平成」から「令和」となりましたが、月日の経つのは早いものであつという間に令和2年を迎えることとなりました。「平成」の時とは異なりすぐに馴染めたような気がします。

令和元年は6月の山形県沖地震、9,10月の台風15号,19号など災害が多い年でした。特に水害、風害で想像を絶する大きな被害が出ました。被災された方に心よりお見舞い申し上げ、1日も早い復興を祈っております。また、政治不信につながる出来事もありました。森友・加計問題に続き、「桜を見る会」とその前夜祭での振る舞いですが、公職選挙法、政治資金規正法に抵触する疑いがあります。会見を行うたびに不信が深まるという悪循環に陥っており、情けなく思っています。隣国の半島や米国の大統領のように自分だけがよければ良いと考えるひが増えたのでしょうか？

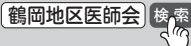
ラグビーワールドカップでは、感動と勇気ももらいました。私自身、「にわか」ファンのひとりでしたが、日本が勝ち進むにつれてどんどんハマっていきました。スコットランド戦で勝利し、初の8強を決めた瞬間、日本全体がまさしく「ONE TEAM」になったような気がしました。この言葉の根底には「他者への気遣い」、「信頼関係」があると思います。この言葉通り、鶴岡地区医師会だけではなく、日本全体が、「ONE TEAM」として良いスタートを切り、今年1年を無事に過ごせることを願っています。

(渡邊 秀平)

編集委員：渡邊秀平・小野俊孝・三科 武・佐久間正幸・木根淵智子・中目哲平

発行所：一般社団法人鶴岡地区医師会 山形県鶴岡市馬場町1-34

TEL 0235-22-0136 FAX 0235-25-0772 E-mail ishikai@tsuruoka-med.jp

ホームページにも掲載しております  URL <http://www.tsuruoka-med.jp>